



Web: <http://www.apcas.jpn.org/>

Mail: office@apcas.jpn.org

Japan Office: 北海道函館市元町20番15号

Tel:090-7653-2329 Fax:(0138)26-9239

SriLanka Office: 19/8, Highlevel Road, Colombo 5, Sri Lanka

話し合い、共に考え、共に歩く

アプカスは、

- ①アイヌ語で「歩く」という意味と
- ②「平和 (Peace)」「生き方の幅 (Capability) の拡張」「持続可能性(Sustainability)」へ向けた行動 (Action) をしたいという2つの思いから名づけられました。

アプカスは、2004年の12月に発生したインド洋大津波のスリランカ人被災者を支援するために結成されました。

「対話・自立・持続」をテーマに、そこに暮らす人々の生き方を大切にしながら、災害への緊急復興、僻地での教育支援、環境保全の活動、家庭菜園や農業技術の普及、衛生向上や水資源の安定確保、現地アーティストとの商品開発等の活動を行っています。

アプカスは、大学時代の友人同志が中心となって立ち上げました。大学時代に話し合った問題意識や興味。そのベースに、メンバーが卒業後にそれぞれの分野で積んだ経験やネットワークを加え、今のアプカスがあります。

アプカスができるまで、できてから

何気なく応募した隊員採用試験で合格？しかし、赴任地は希望だった南米のパラグアイとは大陸も全く違うスリランカに…「環境教育」で現地で活動しました。

青年海外協力隊員としてスリランカへ

2004

インド洋大津波災害

スリランカでは、3万人を超える人々が亡くなりました。この時の被災者を支援する活動が、アプカスの土台となっています。

日本のNGOでの経験から、「人々のための支援」とは何か？ということに疑問を持ち始めました。そこで、違った視点からの『人々のための草の根活動』を学ぼうと思い、以前から付き合いがあった現地NGOで働かせてもらうことにしました。その頃、弱者無視をする大規模開発に異議を唱え、改善を促す『アドボカシー』（政策提言）などに興味を持ち、プラカードを片手に行進したこともありました。

2002

大学を卒業

日本NGOの現地駐在として働く

現地NGOで働く

インド洋大津波の被災者に対する住宅建設プロジェクトを担当しました。デング熱にかかり、集中治療室に3日間入院するということもありました。

2005

2007

中部州大規模地滑り災害

自分がこの分野の仕事が続けていくが悩んでいる時期に中部で地滑り災害が発生しました。この災害に対する支援は、世界的に注目を集めていた津波被災者の陰に隠れ、支援の手はほぼ皆無でした。

地滑り被災後、すべてを失ってしまった人々と山肌が露出した斜面を眺めながら、自分のやるべきことがここにあると決意を固めました。それでも、心の中は不安だらけでした。

NPO法人格を取得

今のメンバーや活動方針の骨格ができあがった時期です。

2008

スリランカオフィス開設

日本事務所、スリランカ事務所、2つの地域拠点で9人の常勤スタッフが働いています。シンハラ語、日本語、英語が日夜飛び交っています。文化や習慣の違いもあり、苦勞もたくさんありますが、やりがいのある仕事です。

2009

政府とLTTEの内戦が終結

少数民族であるタミル人を中心に20万人を超える内戦被災民が発生し、キャンプに収容される事態になりました。



2010

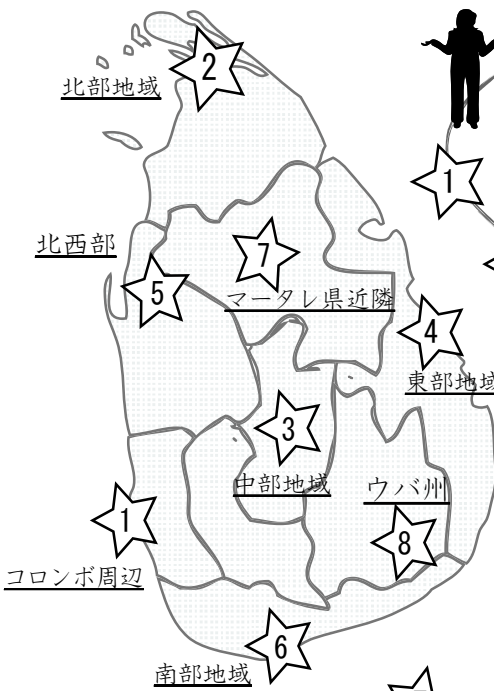


dialogue and independence for the people and community with sharing responsibility and vision...to walk forward together

スリランカが抱える問題とは？



それぞれの地域には、様々な問題とニーズがあり、それを正しく知る必要があります



1 **コロンボ周辺**は、ビジネスの中心部です。都市型の環境汚染やゴミ問題が深刻です。LTTEとの内戦時は、テロ警戒の警備で緊迫していた時期もありました。

2 **北部地域**は、政府軍とLTTEとの内戦の最後の激戦地でした。政府が、内戦被災民を収容しているIDPキャンプが数多くある地域です。

3 紅茶産地として有名な**中部地域**は、高地にあるため涼しい気候です。この地域は、急峻な土地を切り開いているため、地滑り被災が頻発しています。また、気候の変動によって農作物の不作にたびたび見舞われています。

4 **東部地域**は、タミル人組織LTTEの支配下にありました。この地域は、長年の内戦の影響とインド洋大津波の二重の被害を受けている地域です

5 **北西部**は、古くから人工のため池を使った稲作がさかんな地域です。農村地域は、資源価格が上昇傾向の中、肥料や燃料価格が高騰し、苦しい生活を送っています。

6 **南部地域**は、漁業と織物産業、ビーチサイドでは観光業もさかんな地域ですが、インド洋大津波では、もっとも被害が出た地域でもあります。

7 **マータレ県近隣**や**ウバ州**も農業を中心とした典型的な僻地農村地域で、教育が行きとどいていない地域です。人間の生活区域に野生ゾウが現れるといった動物との共存の問題もあります。

2004~



これまでやってきたこと

Where? what?

今やっていること

足早に私たちの活動をご紹介します



インド洋大津波被災者へ

漁具の支援
被災者移転地区でのゴミ問題対策の推進



産業廃棄物による湖沼環境の汚染問題に対して

廃棄物である「おが屑」を原料とした調理用燃料の製造と環境教育活動



教育環境が未整備な学校と生徒へ

幼稚園・学校の建設・改修
井戸、雨水貯水タンク、浄化装置、トイレなどの整備
コンピュータ教室、子ども会、移動図書館の運営
学校菜園の整備
保護者への教育の重要性に関する啓発活動

僻地に暮らす農業従事者へ

家庭菜園や養鶏などの農業技術の普及活動
農業を組み合わせた植林の実施
農作物残渣を用いた紙作りの開発実験



地滑り被災者へ

仮設住宅の建設や住宅資材の提供
防災計画の立案や排水溝の整備
農業・畜産・食品加工技術の普及を通じた生計向上支援
移転地区でのコミュニティセンターの建設

日本とスリランカをもっとつなぐために

スリランカ人アーティストとの商品開発
スタディツアーの開催
他のNGOや関係機関とのネットワーク作り

これからチャレンジしたいこと

- ・北部の内戦被災民の復興支援
- ・乳製品の製造やエコロジカルペーパーの生産を通じた社会起業
- ・村単位の総合的な地域開発

2010

